資料３

川崎市洪水ハザードマップ
幸区版

「意識と準備が命を守る！」

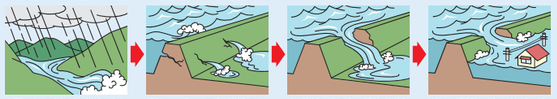
洪水ハザードマップとは、河川が大雨によって氾濫した場合に、洪水浸水想定区域や避難場所を示したものです。

川崎市
KAWASAKI CITY

洪水から身をまもる

洪水発生のメカニズム

● 洪水は、大雨による河川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を越えるなどして起こります。



大雨によって川の水が増え、水かさが上がり始めます。

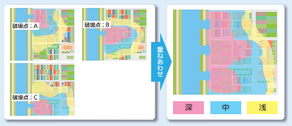
堤防いっぱいまで水が増えると、堤防に水の圧力がかかり始めます。

水が増え、水の力に堤防が耐えられなくなり、堤防の一部が崩れ始めます。

崩れた場所は一気に拡がり、勢いよく水が流れ出し、家などに襲いかかります。

洪水浸水想定区域の考え方

● すべての破堤点（堤防が決壊すると想定したところ）について、どう氾濫し浸水するかを予想します。
● すべての予想結果を重ね合わせ、最大の区域と深さを表示しています。
● 実際は、それらのうち限られた箇所が氾濫し、浸水区域が広がり、除々に深くなります。



都市型水害について知る

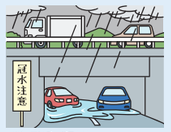
● 大規模な洪水以外にも、都市は舗装された道路や宅地が多く、降った雨は地中に浸透しにくいため、川や水路、下水道に一気に集まります。そのため、次のような危険がありますので注意しましょう。

〈 低地の冠水 〉
・低地や道路のアンダーパス※1では冠水が起こり、車が立ち往生し水没する危険があるため、通らないでください。

〈 地下への浸水 〉
・地下が浸水すると、
　① 水圧でドアが開かない
　② 一気に水が流れ込む
　③ 外の様子が分からず逃げ遅れる
など、命に関わる危険があるため、早めの避難が必要です。

〈 中小河川の増水氾濫 〉
・都市の河川は、急に増水し、流れが速くなり、氾濫するおそれがあります。
・誤って転落しないよう、大雨のときには近づかないでください。

〈 過去の浸水 〉
・過去に浸水があった所は、大雨のとき、ふたたび浸水するおそれがあります。
　事前に確認し、避難する際はこのような所は避けましょう。
・過去の浸水（浸水実績）については、川崎市防災ポータルサイトから確認できます。



※1. アンダーパスとは
立体交差で掘り下げ式になっている下の道路のことです。

洪水からの避難

● 洪水の危険が迫った際には、川崎市から対象の地域に避難を呼びかけます。
● お住まいの環境によって、適切な避難行動に違いがありますので、右ページの判断フローを参考に、ご自身の避難行動や避難先をあらかじめ検討しておきましょう。

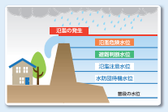
避難に関する情報

避難準備・高齢者等避難開始
お年寄りや身体の不自由な方など、避難に時間を要する方は避難を開始してください。その他の方は避難の準備を整えてください。

避難勧告
災害発生が予想される地域の方に避難を勧めるものです。

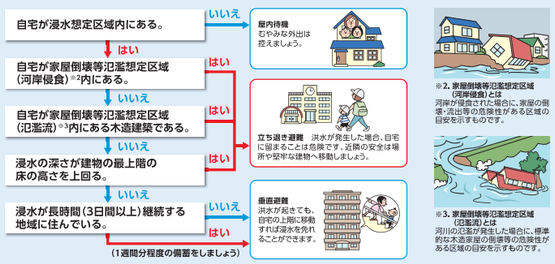
避難指示（緊急）
指示を受けた方は、ただちに避難してください。

水位に関する情報



水　位	川崎市の対応
氾濫の発生	避難指示（緊急）を発令します。
氾濫危険水位	避難勧告を発令します。
避難判断水位	避難準備・高齢者等避難開始を発令します。
氾濫注意水位	水位情報を注視し、災害に備えます。
水防団待機水位	水位情報を注視し、災害に備えます。

状況に応じた避難行動



〈 屋外に避難するときの注意点 〉
・動きやすい服装を心がけ、靴はヒモで締められる運動靴を履くようにする。
　※長靴は足を取られるため危険です。
・非常持出品（飲料水、食料、貴重品など）は、リュックサックなどに入れ、両手が使えるようにする。
・夜間や停電※などで周囲が暗い場合には懐中電灯を用意する。
・やむを得ず浸水している場所を移動する場合※に備え、杖などを用意する。
　※浸水している場所は、蓋の開いたマンホールや水路、側溝などへの転落の恐れ等があり、足元の安全確保が必要です。

〈 助け合い（共助）〉
・近くにお住まいの高齢者、障害者、妊婦、乳幼児、外国人、または旅行者など一人で避難することが難しい方がいます。日ごろからご近所でコミュニケーションをとり、避難の際は、近隣の方々と声をかけあい協力しながら避難しましょう。

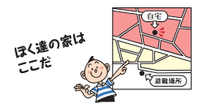
雨の降り方と災害発生との関係　※地域特性により異なる場合があります。

1時間雨量	状　況	災害発生時のリスク
10～20ミリ	○ザーザーと降る。	○この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。
20～30ミリ	○どしゃ降り。 ○車に乗っているときには、ワイパーを速くしても前方が見づらい。	○側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。
30～50ミリ	○バケツをひっくり返したように降る。 ○車での高速走行時には、ハイドロプレーニング現象が生じブレーキが効かなくなる。	○山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。
50～80ミリ	○滝のようにゴーゴーと降り続く。 ○これ以上、車の運転は危険。	○都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。 ○マンホールから水が噴出る。 ○土石流が起こりやすい。
80ミリ以上	○息苦しくなるような圧迫感がある。 ○恐怖を感じる。	○雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

※雨の降り方が強くない場合でも、長時間、広い範囲で雨が降る場合は、洪水の危険が増加します。

ハザードマップの使い方

❶ 自宅を見つけましょう
自宅に洪水が来ることや、がけ崩れが起こる可能性を確認しましょう。



❷ 避難する場所を確認しましょう
洪水や土砂災害からの避難方法を確認しましょう。立ち退き避難が必要な場合は、適切な避難先を確認し、大きく印をつけるなどして災害時に備えましょう。

❸ 安全な避難経路を決めましょう
大雨の時に危険となる水路や橋、アンダーパス、浸水の危険性がある箇所や土砂災害警戒区域などの場所を確認し、避難経路を複数決めましょう。

❹ 実際に避難経路を歩いてみましょう
家族やご近所の方と一緒に歩いて、危険な箇所がある場合は、避難経路を見直しましょう。

❺ 家族で災害時の対応を話し合いましょう
大雨の際の行動について、家族と話し合い、災害時の約束事を決めましょう。

❻ 学校やご近所で考えましょう
学校やご近所で、災害や避難について話し合い、情報を共有しましょう。高齢者など、避難に援護が必要と思われる方についても、みんなでできることを考え、避難の際に協力しましょう。

❼ 我が家の防災メモを完成させましょう

我が家の防災メモ

ハザードマップを使って我が家の防災メモを完成させましょう！！

自宅の災害リスク
● 地図を確認して、該当するところに○印を記入しましょう

	浸水無し	0.5m未満	0.5～3.0m未満	3.0～5.0m未満	5.0～10.0m未満	10.0～20.0m未満
洪水（多摩川水系）						
洪水（鶴見川水系）						
土砂災害警戒区域						

避難方法
● 「状況に応じた避難行動」を確認し、避難方法を確認しましょう
〈 洪水からの避難 〉
□ 屋内待機　□ 垂直避難　□ 立ち退き避難

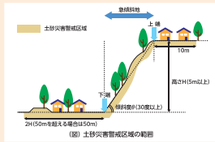
避難場所と避難経路
● 避難方法が決まったら、避難場所と避難経路を確認しましょう
〈 避難場所１ 〉
【　　】
〈 避難場所２ 〉
【　　】
〈 避難場所３ 〉
【　　】
※避難場所と避難経路はそれぞれ複数決め、必要に応じて地図に書き込みましょう

非常持出品
● 非常持出品の保管場所は、家族のみんなで共有しましょう
〈 保管場所 〉
【　　】

みんなの約束
● 家族やご近所での約束事を記入しましょう
〈 家族の約束事 〉
〈ご近所での約束事 〉
※避難に援護が必要な方など地域で協力しましょう

がけ崩れから身をまもる

土砂災害警戒区域とは
● 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（通称：土砂災害防止法）」（平成13年施行）に基づき、土砂災害への注意が必要な区域として、一定規模を越える斜面及びこれに接する区域を、神奈川県が「土砂災害警戒区域」に指定しました。
● 土砂災害警戒区域は、土砂災害の種類に合わせて「急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）」「土砂流」「地すべり」に分類され指定されますが、川崎市における土砂災害警戒区域は全て「急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）」に分類されています。
［指定基準］
土砂災害警戒区域は傾斜地の形態に着目し、一律に指定されるもので、「急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）」の指定基準は次のとおりです。（右図参照）
① 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
② 急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域
③ 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍以内（50mを超える場合は50m）



（図）土砂災害警戒区域の範囲

※土砂災害警戒区域は土砂災害の注意が必要な区域を市民のみなさまに認識していただき、大雨等による土砂災害への警戒が必要な時には、自らの判断で安全を確保していただくことなどを目的として定められています。
注：区域に指定されることが直接、がけ崩れの危険性を示しているということではありません。
※川崎区は対象となる斜面が存在しないため、区域の指定は行われておりません。

急傾斜地崩壊危険区域とは
● 急傾斜地崩壊危険区域とは、がけ崩れにより相当数の居住者等に危害が生ずるおそれがある急傾斜地と、がけ崩れが助長・誘発されないようにするため、切土、盛土など一定の行為を制限する必要がある土地で、「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律（急傾斜地法）」に基づき神奈川県知事が指定した区域です。
● 急傾斜地崩壊危険区域の指定基準は、急傾斜地法等により定められています。

がけ崩れからの避難
● 土砂災害警戒区域の中にいるときに、避難に関する情報が発せられたときには、ただちに安全を確保することが必要です。
● このとき、天候やご自身の状況により、柔軟に行動を変えることができるよう、次の方法を参考に、適切な避難場所の確保などの準備しておくことが大切です。

避難に関する情報

避難準備・高齢者等避難開始
お年寄りや身体の不自由な方など、避難に時間を要する方は避難を開始してください。その他の方は避難の準備を整えてください。

避難勧告
災害発生が予想される地域の方に避難を勧めるものです。

避難指示（緊急）
指示を受けた方は、ただちに避難してください。

状況に応じた避難行動

● **安全な場所への移動**
避難所や高台、土砂災害警戒区域外の知人の家などに移動します。

● **近隣の高い建物等への移動**
安全な場所への移動が難しいときは、近くの頑丈な建物の2階以上や、高い建物のなるべく上階に移動します。

● **屋内の安全な場所への避難**
屋外への避難がかえって危険なときは、崖とは反対側で、なるべく高い階の部屋などに避難します。

日頃の備え

家庭備蓄の充実
● 災害時には、ライフライン機能の低下など都市機能の低下が考えられます。
　このため、各家庭で最低３日間、出来れば７日間、自宅で過ごせる用意をしましょう。

〈 飲料水 〉・飲料水は1人1日3リットル必要です。
　・ペットボトルなどで、家族全員の分、用意しておきましょう。
〈 食　料 〉・お米や乾麺、缶詰など、日持ちのするものをなるべく多く用意しておきましょう。
　・普段の生活の中で十分に買い置きし、賞味期限が来る前に消費しながら定期的に買い足すことで、無理なく備蓄ができます。（=ローリングストック）
〈 その他 〉・カセットコンロ（ボンベも忘れずに）、簡易トイレ（汚物処理袋）などを用意しておきましょう。

非常時持出品チェックリスト　※下記はあくまでも一例です。各家庭の事情に合わせたものを用意しましょう。

水・食料	□ 飲料水　□ 携行食・非常食　※ビスケット・缶詰など
医療・衛生	□ 服用している薬　□ 救急衣料品　□ 生理用品　□ 歯ブラシ・口腔ケア用品　□ 防塵マスク
貴重品	□ 現金　□ 印鑑　□ 健康保険証・預金通帳　※コピー可
安全対策	□ ヘルメット・防災ずきん　□ 厚底の靴　□ 軍手
道具類	□ 携帯電話・充電器　□ 携帯ラジオ　□ 懐中電灯　□ 電池　□ 時計　□ 携帯カイロ □ ロープ　□ ライター・マッチ　□ 缶切り　□ ナイフ　□ 入れ歯・眼鏡など
衣類	□ 上着（防寒着）・下着・靴下　□ 携帯レインコート
生活用品	□ ウエットティッシュ・ティッシュ　□ タオル　□ ゴミ袋・ポリ袋

風水害時に役立つ情報

川崎市防災情報ポータルサイト（川崎市ホームページから）
● 市内の災害に関する緊急情報、被害情報、避難情報などを掲載します。
● 日頃からの備えや、川崎市の防災計画なども紹介しています。
● 外出時の防災対策についてまとめた携帯版の「備える。かわさき」ポータブルを紹介しています。
● 過去10年間の浸水実績を公開しています。

かわさき防災アプリ
● 川崎市の公式アプリのサービス「かわさき防災アプリ」では、災害時の緊急情報や避難情報などをプッシュ通知で受けられるほか、最寄りの避難所や各種ハザードマップを見ることができます。

GET IT ON Google Play
Download on the App Store

メールニュースかわさき
● 川崎市から、市内の防災、気象、災害等の情報をメールでお知らせします。
● 配信を希望する方は右記のメールアドレス宛に空メールを送信してください。

〈 パソコンから 〉
mailnews@k-mail.city.kawasaki.jp
〈 携帯電話・スマートフォン用 URL 〉
mailnews-m@k-mail.city.kawasaki.jp

メールニュースかわさき携帯用URLコード

防災行政無線・防災テレフォンサービス
● 防災行政無線とは、屋外にあるスピーカーから、市民の皆様に避難情報や防災気象情報をお知らせするものです。
● 防災行政無線の放送内容は、電話でも聞くことができます（通常時は啓発放送が流れます）。
0120-910-174（通話料なし）県内の一般加入電話、公衆電話及び一部のIP電話から
044-245-8870（通話料あり）携帯電話、PHS、県外の一般加入電話・公衆電話から

国土交通省 京浜河川事務所 河川の防災ページ
● 多摩川・鶴見川の浸水想定区域、家屋倒壊等氾濫想定区域、氾濫シミュレーションを見ることができます。

神奈川県 土砂災害情報ポータル
● 川崎市を含む県内の土砂災害警戒区域や、日ごろからの備えを知ることができます。

その他
● ツイッター（アカウント kawasaki_bousai）、緊急速報メール、地上デジタル放送、ケーブルテレビ、かわさきFM（79.1MHz）でも、情報を発信します。

お問い合わせ先

避難に関すること	総務企画局危機管理室	044-200-3682
	幸区役所危機管理担当	044-556-6610
洪水浸水想定区域等に関すること	建設緑政局道路河川整備部河川課	044-200-2902
土砂災害警戒区域等に関すること	まちづくり局指導部宅地企画指導課	044-200-3035

緊急連絡先

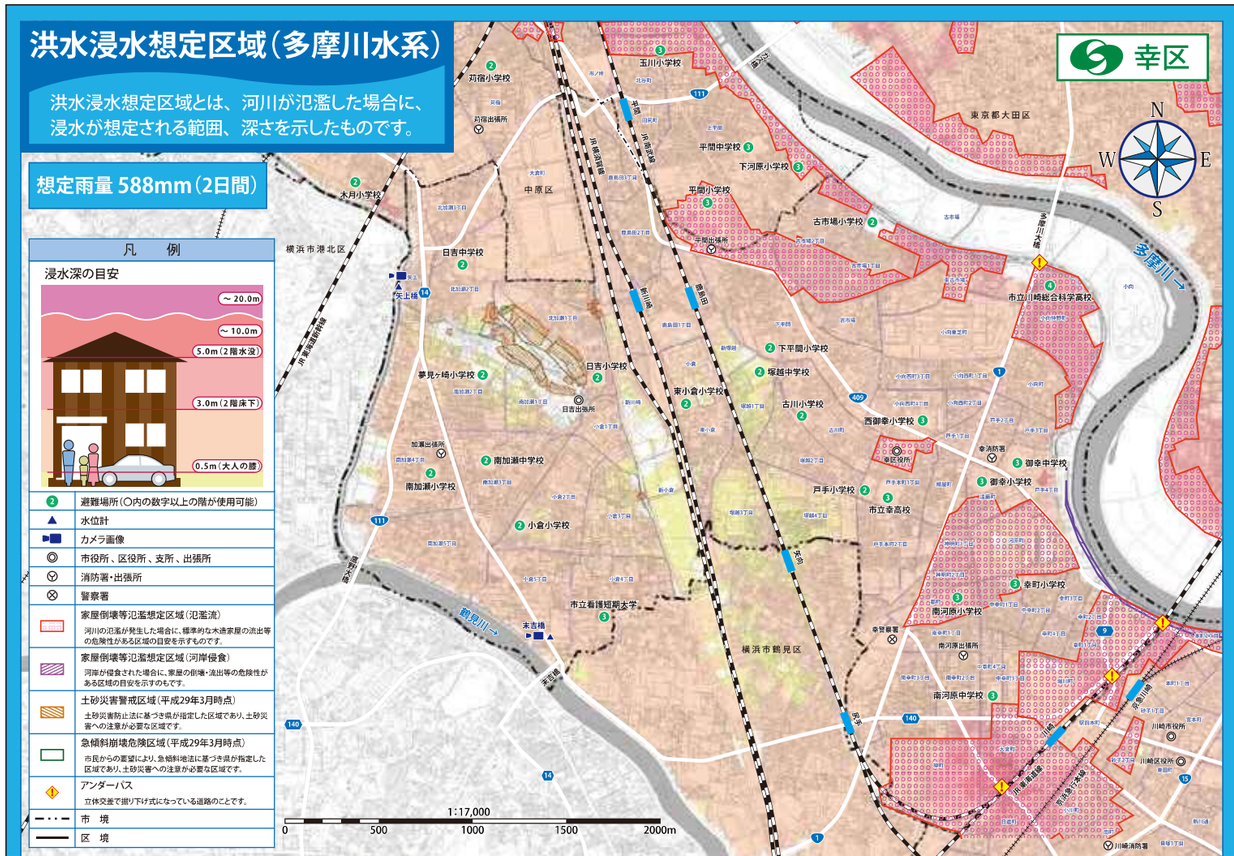
警察署	110
消防署	119

平成29年5月作成

洪水浸水想定区域（多摩川水系）

洪水浸水想定区域とは、河川が氾濫した場合に、浸水が想定される範囲、深さを示したものです。

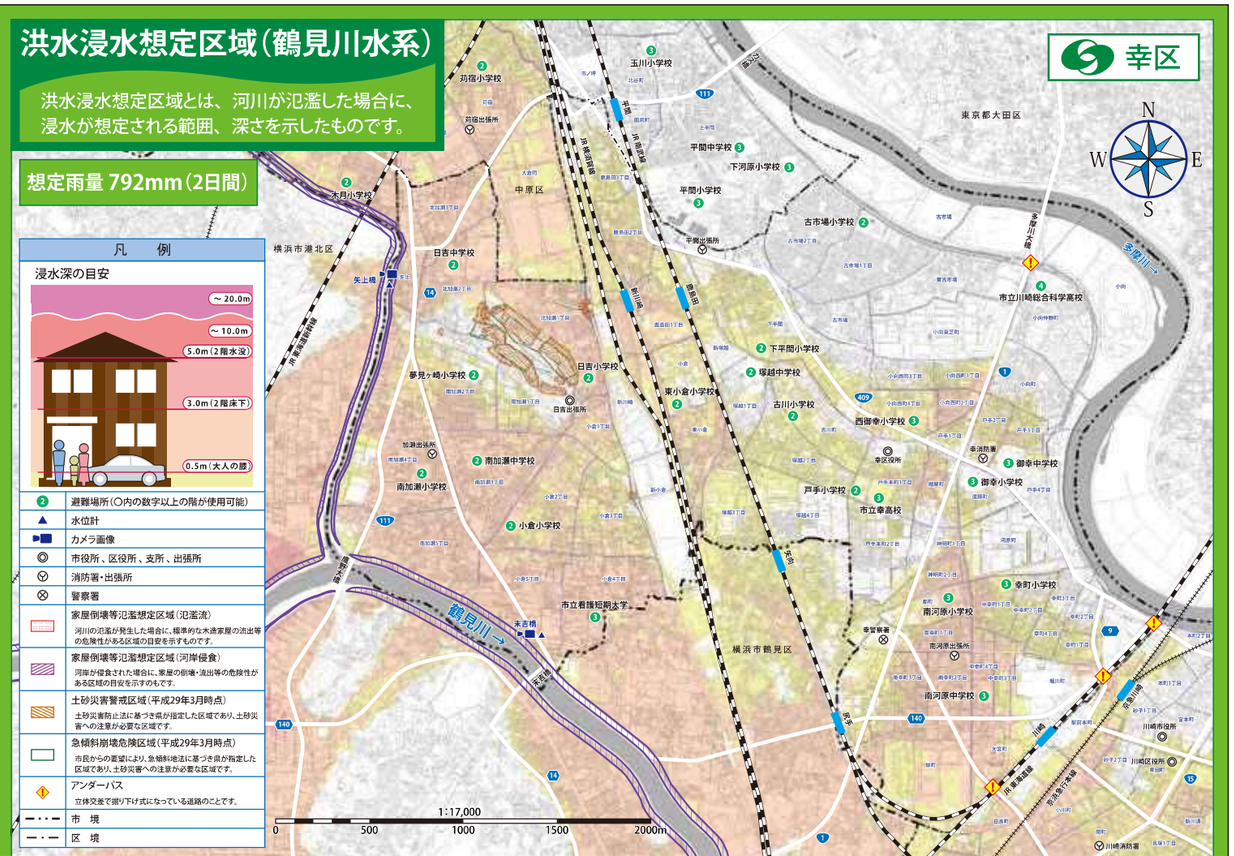
想定雨量 588mm（2日間）



洪水浸水想定区域（鶴見川水系）

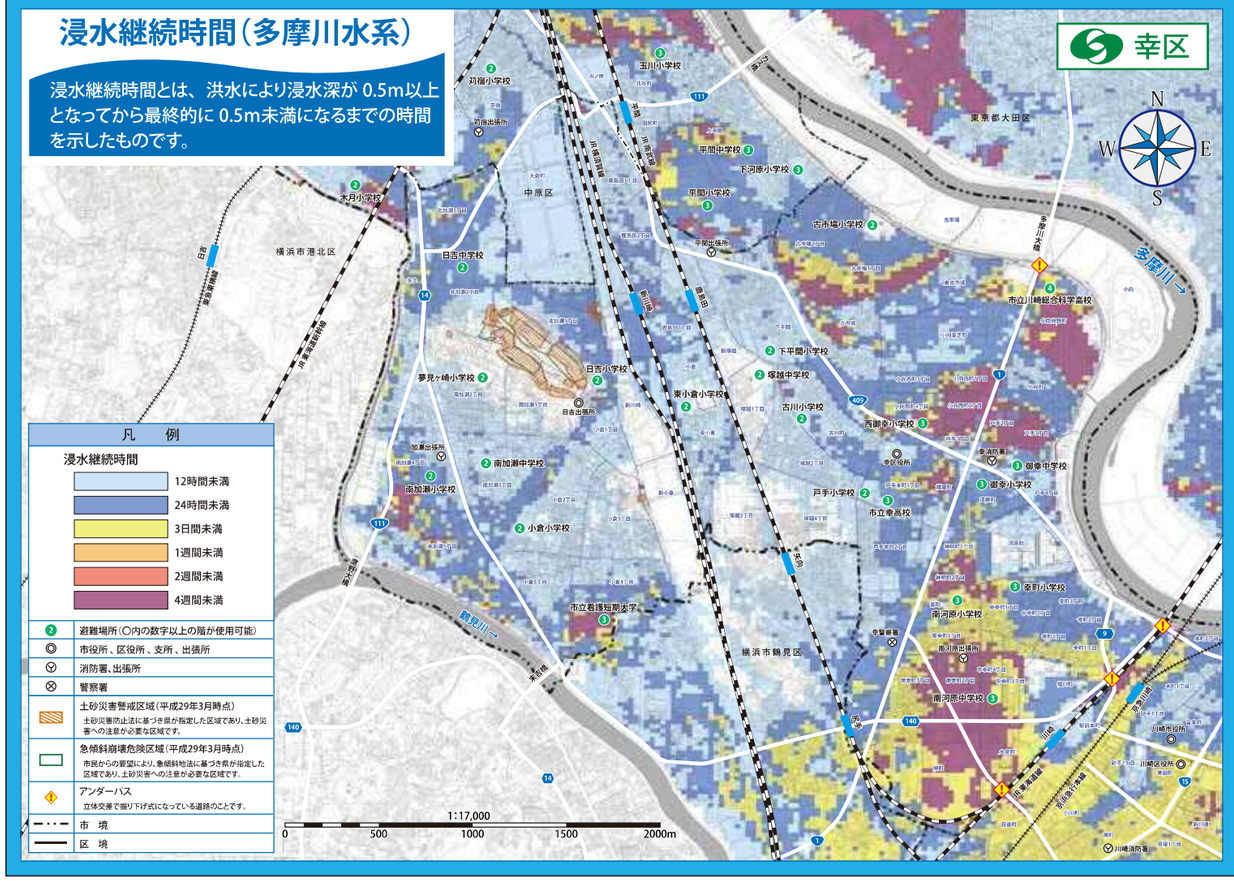
洪水浸水想定区域とは、河川が氾濫した場合に、浸水が想定される範囲、深さを示したものです。

想定雨量 792mm（2日間）



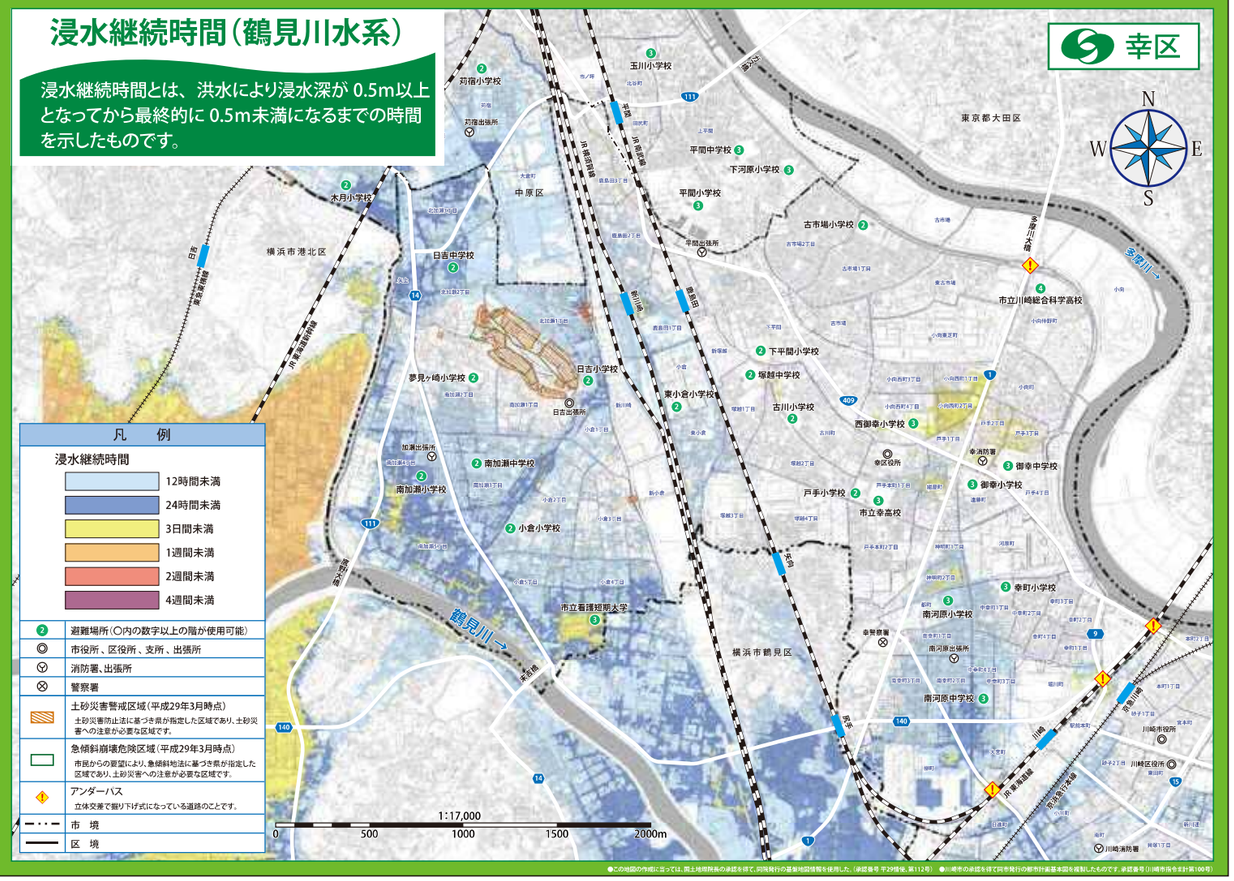
浸水継続時間（多摩川水系）

浸水継続時間とは、洪水により浸水深が 0.5m以上となってから最終的に 0.5m未満になるまでの時間を示したものです。



浸水継続時間（鶴見川水系）

浸水継続時間とは、洪水により浸水深が 0.5m以上となってから最終的に 0.5m未満になるまでの時間を示したものです。



●この地図の作成に当っては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した（承認番号 平29情使、第112号）　●川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです（承認番号 川崎市指令まち第100号）